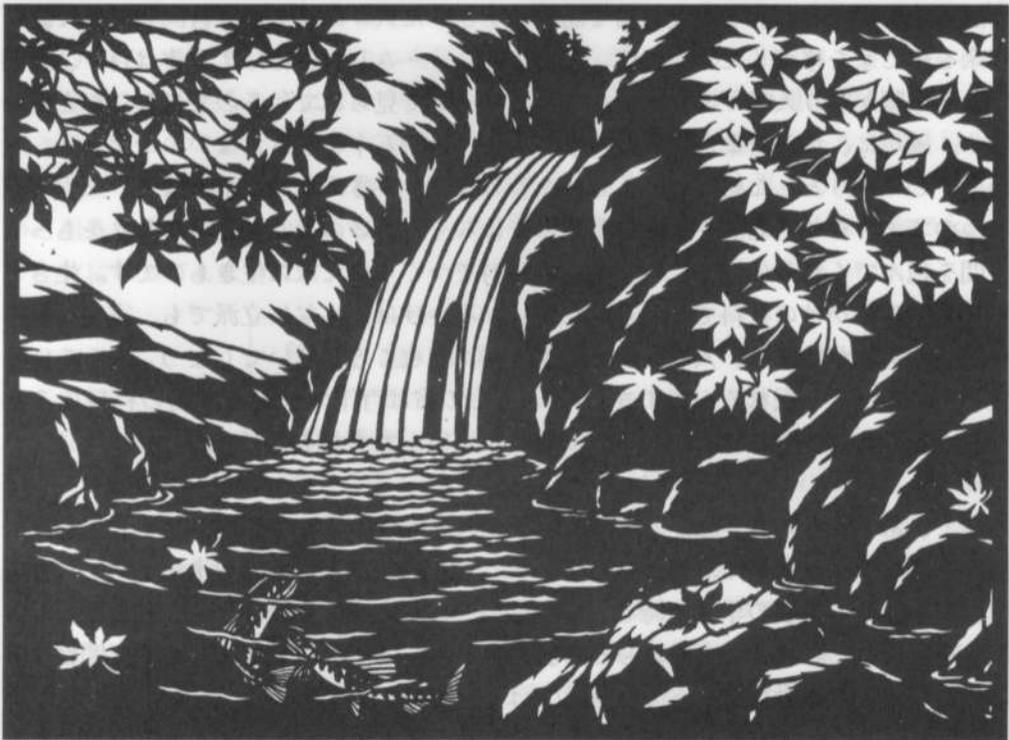


あぶら通信

第11号 1991年10月26日 あぶらむの会発行

〒509-41 岐阜県古城郡国府町宇津江 TEL 057772-4219



宇津江四十八滝

飛騨古川町在住 切り絵作家 菅 沼 守 氏作

前号で春の訪ずれを喜んでいたらもう秋、月並の言葉ですが時の経つ早さにただただ驚きで一杯です。稲刈りも終りホッと一息、あぶらむの里にはなめこやシイタケも出始めました。短い秋の始まりです。あぶらむ通信をお手の皆様にはお元気でお越しのことと思います。ここ、あぶらむの里に生活する者も一同元気にしています。とはいうものの元気なのは子供達だけ、女房は夏の疲れが出たようで今一つ元気なし、私の方は宿を訪ねて下さった人々とくみ交した連日連夜のお酒で胃がシュクシュク、赤ちょうちんのない山里なのにどういふ訳か酒量が増えてしまいました。

待望の宿を開いて初めての夏、景気づけにという皆様のご配慮で盛況の日々でした。三年間のうちに、年間千人泊達成を目標としていたのですが、この様子では年内に達成可能のようです。こんな遠い山里までお訪ね下さった皆様に感謝の気持で一杯です。

「いやー、想像していたよりもずっと立派ですね」、「正直いって、こんな立派とは思いませんでした」この夏、宿を訪ねて下さった人々の第一声は皆同じでした。百年余を経た家を移築したといえ、なんぼリフォームしたとはいえ百才は百才、人間でいえば腰が曲り入歯ガタガタ、そんなイメージで見られているのではないかと思います。確かに、現在新築されている家は百年、いや五十年ももたないのですから。しかし、しっかりとした材料でつくられた昔の家は、手さえかけてやれば二、三百年はもつのです。それも老醜をさらけ出すのではなく、老いの美しさとやさしさをもって人間を包んでくれるのです。ほんものの材料でつくられた家は生きものです。生きています。みせかけの材料でつくられた家は、みかけはどんなに立派でも、完成したその日から劣化が始まり、人間を決してやさしく包むことはないでしょう。「ここにくるととにかくよく眠れるんですヨ」、あぶらむの宿は百年の歴史と本物の材料のみがもちうるやさしさで、ここに宿る人々を暖かく包んでくれるのだと思います。

さて、あぶらむの会が発足して五年、予想外の進展の早さで、四年目にして活動の拠点ともなるべき宿までが建ってしまいました。当初、ここまでを十年と考えていましたから、その進展の早さに時として戸惑い、宿が完成した後は一時虚脱状態になってしまいました。1987年のあぶらむの会発足から、90年の宿完成までの四年間は、あぶらむの第一次激動期といっても過言ではないと思います。

しかし、全くのゼロから出発したあぶらむが、わずかの間にここまでやってこれた背景は一体何なのでしょう。ものが全てに優先し、人間が脇に押しやられ、経済的物質的力のみを力とする社会的風潮の中であって、多くの人々の魂がうめき、苦しみの声をあげ、必死になって心の癒しを求めている今日の時代です。そして、元来、人間の魂を養い育てるべき教育までが、経済的発展のみを優先す



お客様を囲んでの楽しいひととき

る社会の価値観に隷属してしまっている現状の中で、いかなる状況にあっても「転んだら起きる」という道理を身につけて淡々と生きる、「人生の良き旅人」を育てることに邁進せよとの、皆様からの叱咤激励がその背景であると思っています。その意味では宿のさらなる活用をはじめ、「あぶらむ構想」の展開が今後の重要課題となりました。

「あぶらむ構想」－今後の具体的働きについて－

◎ 青少年育成（旅人育て）のための小さな共同体づくり

私たちはこれまで一年間一人を原則に、四人の長期滞在者とよばれる青年達との共同生活を送ってきました。なぜ年間一人かといえば、私たち夫婦で責任をもって関わるのは1～2名だからです。一人の人間に全身全霊をもって関われるということは、私のつくる木工品以上に「手づくり」による業となるからです。正直いって「青少年育成のための小さな共同体づくり」というこの働きに、私はためらいを感じた時もありました。精根尽き果てた時もありました。しかし、前号のK子さんのような文章に、私たちは新たな勇気が与えられました。そして何よりも、このような働きを通して人生の良き旅人を育てるために、多くの皆様よりこの土地とこの宿が与えられたことを思うと、疲れたなんていってはおられません。あぶらむというささやかな働きの中から彼女のような旅人が巣立ったということ、私たちの大きな喜び、財産としなければなりません。そしてそれと共に、私たちの果すべき役割をはっきりと指し示されたように思うのです。

現在の日本社会では、例えば、心のバランスをくずせばその行く先は精神病院、家庭内暴力や非行的傾向は教護院と、すぐに既存の施設に振り分けられてしまいます。私はそれより前に、もっと柔軟な中間の場が必要なように思います。長い人生、時には心のバランスをくずしたり、暴力的になってみたり、多くの山坂を体験するのが普通です。特に、人と人との心が触れ合うことが極端に少なくなった今日ではなおさらのことです。

これは仮定と現実両方に渡るのですが、もしあぶらむに、私たち夫婦以外に2名の同働者が与えられるならば、何らかの理由で高校生活を断念した人、複雑な家庭環境に置かれている人、心のバランスを一時的にくずしている人等、6名ほどを対象として、小さな共同体「旅人育て場」のようなものを営みたくと思っています。

◎ 実践教育（生きた場からの学び）プログラムの充実

これまでも、あぶらむの里づくりと並行して、フィリピンはルソン島山岳州で3回のプログラムを営んできました。多くの困難の中にあっても強く、たくましく生きる村人との交わりを通して、参加者は旅人としての資質を豊かにし、また、南北問題の中での私たちの果すべき役割等を、一片の理屈としてではなく肌を通して学んできました。日本の若者達の心の成長にも、また、近隣諸国とのよりよき相互理解、協力に

とって、このようなプログラムの必要性和継続性を強く実感します。

現在、中国山西省、タイのバンコック郊外の村、フィリピンのミンダナオ島の村よりプログラムの打診が来ています。また、あぶらむの出発点である沖縄や、地元飛騨地域のリソースを用いてのプログラムなど、「生きた場からの学び」としての実践教育プログラムは、「旅人育て」のためにも充実して行かなければと思っています。

◎ 私たちと同じ旅の途上にあって苦悩しているアジアの人々への支援

昨年フィリピン・キャンプに、大工の片町さんと農業の中屋さんの二人にスタッフとして参加してもらいました。これは一つには、将来における一つの小さな試みのためです。フィリピンの山岳州サガタ村に関わって13年、私なりにある程度村人が必要とするものが見えてきました。ないないづくしの村、その中でさらに大変な生活を送る親のない子供達。他方、私の生活する飛騨地区は建築等の中間技術の豊富なところ。サガタ村周辺に生きる孤児達とこの飛騨地を結べば、彼らにこの技術を伝え、村起しのリーダーとして養成する、そんな構図が出来上がります。あぶらむはその仲介をするだけ、技術的指導者は地元の職人さん達です。こんな村起し、国際協力があってもよいのではと思います。

◎ 生活環境の見直し、消費から創造にむけて

現在あぶらむでは、田と畑でささやかながら農産物の可能な限りの自給にむけて歩んでいます。私たちとしては創造の喜びを生活の糧とすると共に、宿において下さる人々を可能な限り自分たちでつくったものでもてなしたく願っています。そして、これらの営みを通して、私たちの現在の生活環境を見直して行きたく願っています。私たちの旅の舞台である地球環境を守るために。

私はこれまで神と人に対して、これらの計画実現のため土地と宿を与えて下さいと願ってきました。そしてそれがかなえられました。そして今度は、共に汗する同働者をお与え下さいと願ひ祈ります。もしこの「あぶらむの構想」に賛同下さり、共にこの地にあって働いて下さるスタッフが新たに二人加われば、あぶらむは上述したような内容の仕事を十分に果して行けると思います。そのためには、真の働き人と、それを支える経済的裏付けが必要となってきます。私たちは、宿の利用料、木工品、自給自足等で可能な限りあぶらむを支えて行きます。しかし何分にも非営利的な働きが多いため、全面的に支えることは不可能です。いつもお願いごとばかりで恐縮ですが、あぶらむのなそうとする働きをご理解下さり、皆様には一人でも多く「あぶらむの会員」として、私たちの働きをお支え下さいますよう喪心よりお願い申し上げます。

周囲の山々がところどころ色づき始めました。秋を演出する赤とんぼが沢山とびまわっている里です。なめこやシイタケも出始めました。どうぞ心落ち着く季節、あぶらむの里へお出かけ下さい。お待ち申し上げます。

1991年10月 あぶらむの会代表 大郷 博

第三期計画に向け新体制で運営

あぶらむの会後援会代表世話人 八代 崇

主のご恩寵のもと益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

あぶらむの会後援会は、1987年あぶらむの会発足と同時に大郷先生の活動に関心と信頼を寄せる者たちが集いその活動を開始しました。この間、皆様方にはあぶらむの会の活動を援助するために多大な御協力をいただき心より感謝いたしております。

第一期計画として、あぶらむの里の土地取得を目的とした募金をスタートさせ、1989年3月岐阜県吉城郡国府町宇津江に念願の土地5千3百坪を取得しました。引きつづき、第二期計画として、宿建設その他施設の整備を目的とした募金をスタートさせ、多目的ホール、木工所そして1990年11月にはあぶらむの宿を完成することができました。これまでに要した資金約5千5百万円は、後援会を窓口として第一期計画は募金で、第二期計画は募金およびあぶらむ債で調達してきました。

あぶらむの会は、発足以来この4年間、あぶらむの里建設にひたすら邁進してきましたが、大郷先生はじめご家族のたゆまないご努力により、宿の完成をもって一段落することができました。そこで大郷先生が「飛騨だより」で触れられているように第三期計画に移っていくことになりました。これまでの計画は、土地取得、建物の建設といったいわゆるハード面を中心に進めてきましたが、第三期計画は、公益社団法人の取得および大郷先生と共にあぶらむの会の活動を担っていくスタッフの確保とそのスタッフへの安定した人件費の供給、そしてフィールドエデュケーションプログラムの実施などいわゆるソフト面が中心となります。それ以外にもハード面としてスタッフが寝起きするスタッフルームの建設なども予定しています。

公益社団法人の取得に関しては、前号の「後援会事務局だより」で報告しましたとおり現在事前調査を行っていますが、法人格取得のために必要な条件をすべて満たすためにはまだ数年掛ることが判明しました。したがって、当面は「権利なき法人」として活動を続けていきますが、これを機会に法人格取得へ向け新たな体制を整え、あぶらむの会の運営を行っていくことになりました。概要は以下のとおりです。

会員登録

これまであぶらむの会後援会を通じてあぶらむの会を支えてきていただいた皆様およびこれからあぶらむの会を支えていこうという意思をお持ちの方々にあぶらむの会会員として登録していただきます。会員は、正会員（個人会員、法人会員）および賛助会員の2とおりとします。

一人でも多くの方々に、正会員として登録していただけることを期待しております。正会員として登録していただける方は、次回のあぶらむ通信に同封するハガキに必要事項をご記入の上、ご返送下さい。

なお、正会員の方には、特典として年1回1泊2日の無料宿泊券およびあぶらむ通信を送付させていただきます。

正会員がご無理な方々にも、あぶらむ通信発行に要する諸経費として賛助会費をお収めいただければ幸いです。お収めいただいた方は、自動的に賛助会員として登録させていただきます。

会費

年会費として正会員のうち個人会員は1万円、法人会員は5万円、賛助会員は3千円を収めていただきます。

会費の徴収は、1992年4月以降とさせていただきます。

会の運営

会の活動は、年1回開催する正会員による総会において決定します。総会では、事業計画の決定、事業報告の承認、その他法人の運営に関する重要な事項などを議決します。ご出席いただけない方には委任状を持って代えさせていただきます。総会での決定事項はあぶらむ通信で会員の皆様にご報告いたします。

また、代表の大郷先生を補佐するために正会員の中から10人前後からなる役員会を設置します。

事業に要する資金は、会員からの会費、募金、その他事業収入で賄います。当面は先に述べたスタッフの件費、スタッフルームの建設費、プログラム費などが事業支出の中心になる予定です。

第三期計画への移行に伴い、あぶらむの宿建設のために皆様にご協力いただいたあぶらむ債は10月末日をもちまして終了させていただくことになりました。ご協力誠にありがとうございました。なお、募金は今後も続けさせていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、あぶらむの会がその所期の目的である「人生の良き旅人づくり」に向け、スタッフを充実し、フィールドエデュケーションプログラムを活発に実施していくための基盤となる、より広範な人々による運営と安定した資金を確保するために一人でも多くの方々に会員になっていただきたく、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

職員会

あぶらむの宿を笑顔で支え続ける日々

— 大郷 育さんにお聞きしました —



Q 飛騨は秋らしくなってきましたね。

育 今年はススキが素晴らしくて、お月見会の時は良かったですよ。でも、もう盛りは過ぎて、そろそろ冬の準備。きのう主人と子供達にストーブ用の薪を運んでもらったんだけど、よく乾いてるから今年はあったかいだろうって話してました。

Q この夏、宿は忙しかったでしょう？

育 7,8月で350人くらい来て下さって、うれしかったですよ。最年長は89歳のおばあさん。でもシャキッと若々しくて、印象的なお客さんでしたね。

Q 宿のおかみさんとしてどんなことを心掛けていますか？

育 自然の中で、心と身体をゆったりと休めてもらいたいと思ってます。お料理は一生懸命やってるけど、なかなかね(笑)。新鮮な季節の野菜や秋はキノコを使ったものなどをお出ししているんだけど、お金をかけたご馳走ではなくて、手間をかけた手料理ばかりです。中でも、地元で食べておいしかったポテトまんじゅうが好評だね。これはジャガイモをふかしたものに片栗粉を入れてこねてまんじゅうにして焼いたものなんだけど、自分なりにタレを工夫したりして、こんなものが好評なんです。ジャガマンとか言ったりするんだけど、「飛騨高原の朝」とか「こがね焼き」とかしゃれた名前にすればよかった(笑)。

Q ニワトリも飼ってるそうですね。

育 新鮮な卵を食べていただくと思ってね。ももちゃんとはなちゃんという2羽で、私が命名したんだけど、おとといトリ小屋が完成するまではホームレスだった。おいしい卵を宿のあちこちに産み落してくれるんで、それを見つけるのがまるで宝探し。ある時、宿のお風呂はナラ林がよく見えるようにと窓が低くしてあるんだけど、その窓から入ったらしく、湯舟にひとつ浮いていて、温泉卵ができちゃった(笑)。それ以来、窓は少ししか開けないようにしてるけど。それから宿の中に上り込んで来る度に、つかまえて両手でパァッと放していたら、なんと飛べるようになってちゃってね(笑)。

Q 4人の子供達はお元気ですか？

育 長男・博輔は自分のことを落ちこぼれのオッチーだなんて言ってるけど、青春真っ盛りって感じで高校生活をエンジョイしてるし、長女・舞は農業高校の実習の話を楽しそうにしてる。二男・耕輔は宇宙とか世界の動きにすごく興味があって、二女・友はそろそろ進学を意識してがんばってる。4人とも自分のことは自分でするし手伝いもしてくれます。どんどん成長していくので、ふと淋しい気もする



ももちゃんとはなちゃん

色が見られるのがとてもうれしい。車の中にはいつも花バサミを入れてあって、買い物の途中でも草むらに珍しい花があるとそれを頂戴して、宿に飾るんです。それがとても楽しいのね。宿には買った花は似合わないし。

Q これからの夢は？

育 昔から好きだった染め物や人形作り、ちりめん細工や、手製の版画のハガキ作りなどを冬になったらやりたい。お客さんの目にとまれば一緒にやっても楽しいし。

Q 朝から晩までの重労働で、育さんがここまでがんばれたのは何故でしょうか？

育 私にとっては自然な道のりだったような気がするんです。大きな進むべき道は大郷との間では了解できているから、曲がり角が来たら無理をしないで神様に任せて、祈りながら待つ、そんな繰り返しで来たらここまで来た。それが与えられた道と一致していたという感じでしょうか。

Q 長い旅をして宿にたどり着いた時、育さんの「いらっしゃい」の一言が聞けると心からほっとするという人、多いようですよ。

育 私は、おかみというより、まかない婦だけど（笑）、そう言ってもらえるとうれしい。何にもない、それしかできないから、心からのおもてなしで、気持ちよくお迎えしたいと思っています。

あぶらむ祭のお知らせ

この11月で、宿が完成して丸一年。これを記念して、来る11月23日（土）、24日（日）の両日、あぶらむ祭を開催することになりました。

23日の夜は、シタール奏者のスシュマ・オマタさんをお迎えしてのミニコンサートも予定しています。

晩秋の一夜、シタールの調べを聴きながら、美味しいお酒と心づくしの料理で楽しいひとときを過しませんか。

参加ご希望の方は、あぶらむの宿までご連絡下さい。

“シリーズ 今、現場から”

海外福祉教育事情

— 福祉の場で子供たちを見つめて —

国立武蔵野学院勤務 佐藤 裕

1980年4月、私は立教大学に入学した。同時になぜかチャペル団体B.S.A.16支部にも入部した。当時大郷先生はこの16支部の顧問でもあり、以後私は、先生と現在までかかわりを持つことになった。今もおそらくそうであろうと思うが、あの頃も先生はいつも多忙で、普段は私達学生とろくに話し合う時間もなかったような感じがする。だからたまにあるミーティングでの先生の話は迫力があり、ずい分印象深かった。先生の話はいつも理路整然とし、しかも実行力のある人なので、私達学生は先生と話し合う時は、かなり慎重に言葉を選んで話さなければならなかった。そして、大学卒業前、先生に初めて同行して頂いた16支部のネパールキャンプが、私の進路を決定的にしたようである。このネパールキャンプとは、佐藤寛さんが活動していたネパールチトワン農場でのキャンプである。

卒業後、私は企業に就職したが、どうもその仕事に興味が持てなかった。私の心がそこにはないのである。どうも遠回りをしているような感じで、本当にやりたいことを早くやろうという気持ちが強かった。それは福祉の現場で自分を試してみようという気持ちである。

1987年4月、私は国立武蔵野学院に就職した。ここは、児童福祉施設で教護院（きょうごいん）と呼ばれている。法を犯した少年が、家庭裁判所の審判で措置され入所して来る。いわゆる“非行少年”である。彼らはおおよそ中学生の年代である。非行の種類は盗み、校内暴力、バイク・自動車の無免許運転など様々であるが、彼らの家庭環境が劣悪であることはみな共通している。放任、体罰、極端な過保護、両親の離婚・自殺などで彼らの受けた衝撃や不安は、想像しがたいものがある。入所当時の彼らには幼児性がみられ、情緒が不安定で、人間不信があり、いつも不安をかかえている感じである。私はここで5年間生徒に授業をしたり、クラブ活動の指導をしたりという立場で、いっしょに生活してきた。そこでいつも思うのは、「いかに彼らの個性を尊重するか」ということである。ここでの授業は、一応能力別にクラス編成され、人数も各クラス十数名といった所である。しかし、このクラス内でも生徒の能力差がかなりあり、授業が先に進まなくなることがあるのだ。もっと生徒の多い一般の学校では一体どんな事情であろうか。

今年9月、私は児童福祉海外研修に参加した。行先は、デンマーク、イギリス、ドイツで、福祉先進国といわれる国々である。中でもデンマークの福祉は、スウェーデンと並んで世界でもっとも「進んでいる」といわれている。この国の福祉・教育事情について説明する。この国は、人口513万人、国土面積4万3千km²の小さな国で酪農王国である。1915年には女性参政権が実現した。第二次世界大戦でドイツに侵略され

たデンマークは、今度こそ、自由で社会福祉国家をめざすのである。義務教育は9年間であり日本と同じであるが、その中身はかなり異なっている。私が驚かされたのは、たとえば英語のリーダーの教科書（デンマークの母国語はデンマーク語）を読ませる時には、生徒の能力に合ったリーダーの本を読ませているということである。それは、ここでは27人学級なのであるが、27人1人ずつ教科書が異なるというのではなく、同じような能力別に3人、2人、5人など1クラスの中で数種類の教科書を使い、授業をしていくということなのである。デンマークのある先生は、私達に「機会はみな平



学院生徒達の稲刈り風景

等でなければならない。しかし、人の能力はそれぞれ異なっていると認識しなければならない」と述べた。異なった能力個性を持っているにもかかわらず、同じクラスに入り、文部省検定の年齢相応の教科書で授業を受け、人よりよい成績をとるように仕向けられる日本の教育環境をどう考えたらいいのだろうか。そこでは、友達

と遊んだりケンカしたり、そういったものから生れるはずの「他者への思いやり」は、育まれるのであろうか。むしろ、それは、落ちこぼれを生み、社会から不当な差別を受けているのではないのか。夏休みの宿題についても、ここでは存在しない。夏休みとは旅行したり、よく遊ぶためのものであって、勉強するためのものではないということだ。また、中卒時に試験があるようだが、これも受験したい人が受けるだけの話である。それでも高校進学率は30%、専門学校が70%である。専門学校で、職業資格をとるのである。障害者は当り前のように一般の学校に通う。

●福祉の現場ではどうであろうか。日本は、各職場で、限られた予算で、狭い空間の中で、欧米並みの労働時間に追いつこうと必死にもがいている。職員の人数はそのまま、労働時間が短縮されるわけであるから、現場の人数が手薄になる。そうなればある程度規模の大きな施設しか生き残れない現実がある。日本には、弱肉強食と競争原理しか働かないだろうか。今、ヨーロッパではノーマライゼーションが全盛である。特にデンマークでは、脱施設化が進み、児童や青少年の施設収容は減少の一途をたどり、これに反比例して代替施設、一般里親、専業里親への措置収容が増加している。つまり、多人数の施設より、もっとも小さなファミリーのような単位だったら、よりよい福祉が提供できると県や市の福祉課が考えているからである。ここで、なぜ県や市の福祉課が出てきたかという、デンマークでは、日本のような中央集権はとっていないからである。今日本で騒がれている地方分権が、ヨーロッパ各地で実施されている。今回、私がデンマークの福祉事情について聞いたのは、アンデルセンの生誕地オーデンセ市の社会福祉担当官からである。彼はデンマーク語で「私達の町オーデンセでは」という言葉をよく使った。初め私は「なぜ、デンマークでは」とならないのかと不思議に思った。あとでわかったことであるが、地方分権が確立したこの国では、国からの方針や制約などに縛られることがないので、県や市は、自由に独自にプラン

を練り、予算を組み、その福祉政策を実行しているということであった。福祉のモデルは、与えられるものではなく、自分達が、過去の経験や歴史を踏まえ、作りあげていくものなのである。オーデンセのあるファミリーグループホームで訪問した時、メンバーの1人が、施設の職員にこう質問した。「どのような日課になっているのか説明してください。」それに対し、その職員はすぐに答えが出なかった。つまり日課としてのモデルがないのである。彼は、考えた末「毎週月曜日午前中に職員会議があり火曜日の午前中、親子と面接するが、あとは決まっていない。みんなでハイキングに行くかもしれないし、職員自身の研修があるかもしれないし、急な会議があるかもしれない」と述べた。なるほど、その通りである。日課に従って時間に追われる私達だが、ここではそうではないのである。

私達は、私達のモデルをどう作っていくべきであろうか。職員と収容児童が1対1のようなヨーロッパのまねはできないように思えるし、御上からの方針ばかり聞いては独自のものなどできるはずがない。それは、私達自身が作っていかなければならないのだ。そして、我々にいつも学ぶ姿勢がなければならない。

自分のことを思うようにしゃべれない武蔵野の子供達。彼らの親は大人として自立できず、子の考え方とあまり大差がない。この子供達には、社会ルールを説く以上にこのような家庭環境や社会に負けない強い生きる意志と自己主張の方が大切ではないかと思う今日この頃である。私にとって、個性の尊重ということが、この旅で永遠のテーマになってしまった。

後援会事務局だより

日頃、「あぶらむの里建設募金」にご協力いただきありがとうございます。

“神さまは、必要なものは必ず与えて下さる”これは以前にも触れましたが、募金活動を始めるにあたり、世話人の一人であるK氏が言った言葉ですが、初めはその金額の大きさに“またいつものように調子の良いことを言ってかかる。まあ、だまされたつもりでやってみるか”そんな気持ちで事務局一同始めたのですが、ここまでその言葉どおりに実現してきました。1987年12月に“あぶらむの里建設募金”を開始して丸4年。この間延べ1960名の方々から約3580万円の募金をいただき、135名の方々から約2400万円のあぶらむ債を購入いただきました。これらすべての方々の気持ちが結実し、私達にあぶらむの里と宿が与えられました。

大郷先生の飛驒だよりにもありましたが、この夏は多くの方々にあぶらむの宿をご利用いただきました。長い歴史と本物の材料で作られた宿だからこそ持つやさしさ、ぬくもり、それに加えて大郷先生ご家族の心からのもてなし、そしてそれを支えて下さった多くの方々の暖かい気持ちが、宿を利用する人々の疲れを心から癒すのではないのでしょうか。

土地そして宿といわゆるハード面が私達に与えられました。今度は、また厚かま

しいお願いを神さまにしないではいけません。それは“人”です。大郷先生と共にあぶらむの会の活動を担ってってくれる人です。そして、皆様には、素晴らしい人が与えられるよう一緒にお祈りしていただくことと、人を確保するための現世的保証としての“お金”をまた厚かましくお願いしなければなりません。詳しくは、代表世話人の文章のとおりです。何卒、よろしく願いいたします。

なお、これまで募金ならびにあぶらむ債にご協力いただきました方々には、無料宿泊券をお送りさせていただきます。万が一、届かなかった場合には、事務局西田(0424-82-2051)までご連絡下さい。

(事務局 西田)

10月7日現在の募金ならびにあぶらむ債の申し込み総額は以下の通りです。

募金申し込み総額 35,826,920円

あぶらむ債(1口10万円、5年間借用、無利子) 24,000,000万円

※送付先

郵便振替 東京7-255427 あぶらむの会後援会

銀行振替 第一勧業銀行池袋西口支店 190-1434235

あぶらむの会後援会 代表世話人 八代 崇

○10月7日現在の募金申し込み者(順不同・敬称略10月7日以降の方は次号にて)

黒井ミヤ 中村洋 萱間隆夫 熊谷一綱 糟谷珠子 赤井充也 松岡和夫 沼尾康彦
高橋清子 小松英樹 新田和子 村瀬信也 外村民彦 高坂征男 一丸直也 池田秀直
橋本禮子 岩間光雄・芳子 深田馨子 日下初子 野崎久子 大河内靖史 林英夫
海宝道義 滝沢助蔵 岩浪恒子 大友正幸 安本潤 田尾兵二 中村ひろ子 小笠原スワ
門田圭介 齊藤皓彦 鈴木茂男 大久保茂之 リチャード・メリット 原川恭一
森田利光 長間四郎 塚田道生 杉村進 野村浩一 平岡眞 武井秀雄 田中誠
島谷晴朗 瀬堀信一 齊藤孝 戸塚恭子 筒井啓子 加福ともゑ 伴玲子 坂本吉弘
渡辺幸 木田献一 和田八束 長尾恵子 大和田勝 岩坪哲哉 鶴田陽子 関田寛雄
中村正実 大澤浅香 堀田利子 佐口哲 畑井正春 井上洋子 牛腸達也 池田史子
木下春子 鈴木康仁・佳子・希奈 鬼本博文 中山弘 高野アサノ 宗像和雄・千代子
佐藤節子 吉植よし子 河田健二 三光教会 阿久津富男 石井秀夫 木島出
服部ミツエ 松村行雄 新倉俊吾・久乃 園部千恵子 北陸霊交会 高松光子
杉山満子 千場恵子 ピーター・テリー 市川秀一 安藤正和 大野俊朗 阿部潮音
佐々木国夫 木谷 谷市三 高槻教会一同 藤沼義治 マツウラノブオ 島光文子

○10月7日現在のあぶらむ債申し込み者(順不同・敬称略10月7日以降の方は次号にて)
堀内昭 吉田保子 川上詩朗・美砂 木村清一 佐多和子 宗像和雄・千代子 高橋正子
中島澄子 谷合広彦 野崎節子